

球との推移

(神奈川・日医大第2)

大川 了汎, 大川 公康, 鈴木 昭

目的: 子宮癌, 卵巣癌, 又はその他の悪性腫瘍の場合の治療前, 治療中, 治療後及び治療後数年に再発のない場合と再発の場合の流血中淋巴球数及びその性状を培養によつて分析し, 血清蛋白像の変化を追求し, 酸性多糖体投与による間葉系賦活による影響を研究した。

研究方法: 入院時の血清蛋白電気泳動像をオキシイド濾紙を用いて分析し, 流血中淋巴球の分析を行なつた。即ち数の算定と, 形態的に大中小に分類した。尚培養によつて Blast-Transformation を検した。

成績: 治療前の血清蛋白像ではアルブミン減少, α -及び γ -グロブリン増加を認め, 化学療法, 手術によつてアルブミン減少, γ -グロブリンの増加を認めた。経過良好な場合はアルブミン増加, α -グロブリン減少, γ -グロブリン増加を認めた。酸性多糖体によつてこの変化は一層強力に認められた。流血中淋巴球数は 112例中70%に正常値以下に減少していた。抗癌剤, 手術, 放射線によつて更に減少し, その後の恢復は遅く正常値になるには数ヵ月~1年位を必要とした。3~5年後予後良好である場合は淋巴球増加していたが, 再発の場合は減少していた。予後良好の場合は 2,000以上又は比率で40%以上の例が多い。治療中に白血球数のみならず淋巴球数も必ず検する必要がある。癌患者では Blast-Transformation を示すものが減少していた。

33. 子宮頸癌患者の膀胱鏡所見

(札幌・北農) 後藤 史郎

子宮頸癌患者の膀胱鏡所見につき検討を加え, 代表的症例についてのべた。

1) 根治手術後の炎症性変化=膀胱粘膜の粗糙発赤腫脹, 白苔等, 炎症性変化が長期にわたり残存するものがある。

2) 潰瘍→瘻孔形成=慢性炎症性変化が治癒せず, 粘膜萎縮, 潰瘍形成から, 術後晩期に膀胱瘻を発生するものもある。

3) 膀胱粘膜の浮腫性変化=浮腫は浸潤の進行例に高率にみられ, ①びまん性浮腫, ②胞状浮腫, ③脳回転状浮腫の3種が知られているが, いづれの型の浮腫であれ, その根底には癌の浸潤または再発が存在することが多く, 重要な所見である。

4) 粘膜萎縮型, 肉柱形成型

5) 潰瘍型=①癌浸潤による癌性潰瘍

②放射線性潰瘍

この両者を膀胱鏡的に鑑別することは困難なことが多い。

6) 浸潤型=末期には膀胱粘膜まで浸潤し, 壊死, 穿孔をみる。

7) 膀胱鏡所見は, あくまでも粘膜面に現われた変化であるから, 膀胱鏡所見に異常がなくても浸潤転移の進行している例も存在することは注意する必要がある。

8) 頸癌患者の尿路系に対する影響については, 上部尿路系に対する種々の検査法を組合わせて検討する必要があるが, 膀胱鏡所見も意義あることをのべた。

34. 神経成長促進因子 (NGF) の 頸癌根治手術後の 排尿障害に対する応用

(埼玉・中央)

○佐々木寿男, 金子 宜淳, 青木 淳一

中島 洋, 黒沢 達郎

子宮頸癌の広汎性子宮全切除術を行うと, 基靭帯切断操作に際し, 膀胱機能の維持に最も重要な骨盤神経の離断が不可避であるから著明な膀胱麻痺・長期の排尿障害をもたらすことは周知の通りである。この病態には, 術後の膀胱の位置変化・腹圧・後部尿道の抵抗などの因子も関与するので, 骨盤神経の離断がすべての原因とは思われないが, 最大の因子と見做される事は確かであろう。それにも拘わらず, これに対する今日の治療的手段は十分な効果を現わすとは云い難い。

今般われわれがここに試用した神経成長促進因子 Nerve Growth Promoting Factor (NGF) とは, Buckner, Montalcini, Cohen 等の研究が端緒となつて発見された蛋白で, 動物の顎下腺にもつとも多く分布し, 精製 NGF は in vitro で神経線維の成長を促進するばかりでなく, in vivo で成熟動物の障害された末梢神経の再生をも促進することが知られている。

われわれは牛の顎下腺より抽出精製された NGF の製剤を, 頸癌根治手術後の患者10例に投与して, 主として臨床的諸計測値より, 排尿障害に及ぼす効果を検討した。

投与量は 1日3~6~9mg宛とし, 7例は術当日より, 3例は術後の途中の病日より, 9~30~40日間使用した。自験例で, 自尿開始日および残尿量が50ml 以下になるまでの所要日数は13.0日および17.8日となつて, NGF非投与自験例に比して残尿減少経過において特に早期化が認められ, 更に残尿率を算出してその推移を検討すると, 対照に比して明らかに好影響が認められた。なお新症例について, 膀胱内圧に及ぼす影響を検討中で